

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	実践的教育活動を校区内で統一する	①合同授業研等で、連携カリキュラムを有効に活用する。 ②つながり力の育成に向けて、それぞれ（各校園所、各学年）が授業で何を大事にすべきかを明確に持つ。	①連携カリキュラムの見直し、修正について検討する。 ②各校、子どもが主体的・対話的に学ぶ授業に取組み、それぞれの実践を各校が交流・取り入れる。	①連携カリキュラムに必要な項目について検討し、追加作成を行う。 ②校区全体で子どもが主体的・対話的に学んでいる授業を実践する。
確かな学力の育成	目標に向かって最後まで努力できる子どもの育成	・協同学習を通して、生徒がわからないことを「わからない」「教えて」と言えるようにする。生徒が周りに関わり合い（つながり）ながら、主体的で深い学びができる課題設定を追求。 ・家庭学習習慣の改善。 ・生徒会活動を軸にした学習集団の育成。	・生徒が周りに関わり合いながら主体的で深い学びができる授業の展開。 ・家庭学習習慣の改善。 ・生徒会活動を軸にした学習集団の育成。	・全員が参加し、「学び」が保証された授業の展開。 ・家庭学習習慣の改善と発展。 ・生徒会活動を軸にした学習集団の育成。
豊かな人間性を育む	自他の生命と人権を大切に、助け合い、励まし合い、思いやりのある子ども育成	・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う。 ・進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある生徒を育てる ・基本的生活習慣を確立し、正義感、他人への思いやりの心を育てる。	・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う。 ・進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある生徒を育てる ・基本的生活習慣を確立し、正義感、他人への思いやりの心を育てる。	・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う。 ・進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある生徒を育てる ・基本的生活習慣を確立し、正義感、他人への思いやりの心を育てる。
健康・体力の増進	体力向上を意識して取り組める生徒の育成	・前年度までの取組みの継承。 ・食育の推進。 ・子どもの発達段階や体力・運動能力の状況を踏まえた授業の展開。	・前年度の取組みの継承。 ・新体力テストの実態を把握し、計画的・継続的な体力づくりに努める。 ・運動の日常化を図る取組みの工夫。	・前年度の取組みの継承。 ・学年ごとの系統性を意識したカリキュラムの作成。 ・心と体を一体としてとらえた授業の充実。
支 援 教 育 の 充 実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

やや課題が残る結果であった

②書くこと

やや課題が残る結果であった

③読むこと

やや課題が残る結果であった

④言語事項

課題が残る結果であった

(問題形式)

①選択式

やや課題が残る結果であった

②短答式

やや課題が残る結果であった

③記述式

出題なし

(無解答率)

やや課題が残る結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問
9二1:漢字を読む(覚悟を決める)
- ・もともと正答率の低かった設問
9五:話合いの記録として適切な言葉を考える
- ・もともと無解答率の高かった設問
9一1:漢字を書く(組織のキボを大きくする)
- ・もともと無解答率の低かった設問
2二:スピーチの構成を説明したものとして適切なものを選択する

国語B

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

やや課題が残る結果であった

②書くこと

課題が残る結果であった

③読むこと

課題が残る結果であった

④言語事項

課題が残る結果であった

(問題形式)

①選択式

やや課題が残る結果であった

②短答式

課題が残る結果であった

③記述式

課題が残る結果であった

(無解答率)

やや課題が残る結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問
2一:スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する
- ・もともと正答率の低かった設問
1三:比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く
- ・もともと無解答率の高かった設問
1三:同上
- ・もともと無解答率の低かった設問
1一:本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が具体的に表現されている箇所として適切なものを選択する

分析

全体的に課題が残る結果となった。特に、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の問題の正答率が低く、知識に関する積み重ねに課題がある。授業等で再確認する仕掛けが必要である。

「話す・聞く能力」に関しては、様々な場面で子ども同士の対話を意識してきたので、次第に力がついてきた。しかしまだまだ十分ではないので、引き続き、グループ活動等を通して、向上させていきたい。

「書く能力」について、授業での課題や振り返りにおいて、文章を書くことに意識を置いてきたが、国語Bの問題のように「情報を読み取り、それを読み手にわかりやすく書く」ことを求められる問題では、力を発揮できなかった。語彙力の習得はもちろんだが、文章の要点を押さえ、必要な情報を的確に表現できるよう、授業の中で取り入れたい。

数学

数学A

(領域ごと)

①数と式

課題が残る結果であった

②図形

課題が残る結果であった

③関数

課題が残る結果であった

④資料の活用

課題が残る結果であった

(問題形式)

①選択式

課題が残る結果であった

②短答式

課題が残る結果であった

③記述式

出題なし

(無解答率)

やや課題が残る結果であった

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問

1(4): 3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す

・もっとも正答率の低かった設問

10(3): 反比例の表から比例定数を求める

・もっとも無解答率の高かった設問

9: 長方形の縦の長さとの面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する

・もっとも無解答率の低かった設問

1(2): a と b が負の数のときに四則計算の結果が負の数になるものを選ぶ

数学B

(領域ごと)

①数と式

課題が残る結果であった

②図形

やや課題が残る結果であった

③関数

課題が残る結果であった

④資料の活用

やや課題が残る結果であった

(問題形式)

①選択式

やや課題が残る結果であった

②短答式

課題が残る結果であった

③記述式

やや課題が残る結果であった

(無解答率)

やや課題が残る結果であった

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問

3(1): 与えられた表やグラフから、5月31日から4日経過したときに貯水量が 2820 万 m^3 であったことを表す点を求める

・もっとも正答率の低かった設問

2(3): 六角形を n 個つくるのに必要なストローの本数を、 $6+5(n-1)$ という式で求めることができる理由を説明する

・もっとも無解答率の高かった設問

3(2): 与えられた表やグラフを用いて、貯水量が 1500 万 m^3 になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する

・もっとも無解答率の低かった設問など

1(1): 隣り合う4枚の正三角形の真ん中の1枚のある模様としたときに、残りの3枚にできる模様を選ぶ

分析

「1つの授業で1テーマ。授業内の練習プリントも1テーマ。課題を細分化し、テーマに分け、段階を踏んで自ら登っていけるように。」そのように意識して、授業内で力をつけさせているつもりであった。

それぞれの授業の1時間をみれば、課題を達成し類題も解くことで、一定の練習量を積んでいる。

ただ、全体としてみれば、その時間に達成したものは、達成したもので、過去のことであり、次の時間には気にすることがなくなってしまう、定期テスト前に振り返るだけになってしまっている。授業や課題のテーマを細かく分ければ分けるほど、その時間の、その課題の、テーマが決まっているので、あまり考えることなく課題を達成しているのかもしれない。自分の力で達成できるように、細分化し、段階を踏んで課題に取り組ませてきたが、そのことで、一問一答式のような練習を繰り返しているだけになっているのかもしれない。生徒からすれば、一問一答式の形で練習を積んできて、力をつけている気になっていたが、今回のテストのように、違う角度から問われたり、記述式であったり、普段と違うときには対応できていない。無解答も増える。その日できたことを定着させるためには、テーマに分けるのではなく、色んな課題をランダムに経験し続けること、その時間を確保することが必要だと感じる。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

昨年度と比較して、国語・数学ともに平均正答率が低下した。数学では特に無解答率に大きな課題が見られる。

茨木市が定める子どもたちに育む5つの力（学び力、ゆめ力、自分力、元気力、つながり力）については、学び力を除く4つが目標値を超えた。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

・昨年度に比べ、学力高位層の割合が減少し、低位層の割合が増加した。昨年度まで改善傾向にあったが、改めて課題が露呈した。

・エンパワー層についても同様に増加し、大きな課題となっている。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

授業力の向上

- (1) 年3回の授業力向上研修
「全員が参加し『学び』が保証された授業」を目指し、教職員全体で研究を進める。
- (2) 全教員授業参観交流
年間3回以上、全教員が校内で授業を公開、参観し、協同学習を基本に授業改善に努める。
- (3) 教科会議
年間5回以上、各教科の連携を深め、より深い授業研究を目指す。

自学自習の改善

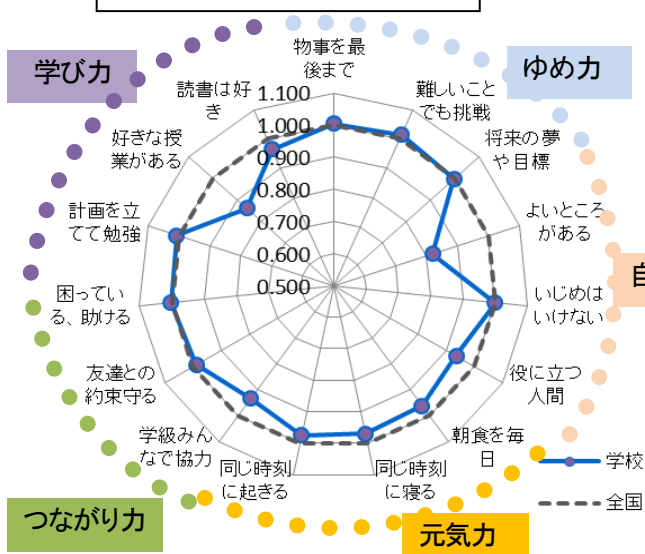
- (1) 計画的な宿題
各教科、テスト前に集中して宿題を課すのではなく、定期的に、着実に力をつけるように課す。
- (2) ぶらすノート
ST時に次の日の連絡を書き、宿題を確認し、家庭での課題を整理する。また、年間を通して行事予定を把握し、逆算して行動できるように仕掛けをする。
- (3) 放課後学習会（ぶらすタイム）
毎週、各学年指定日の放課後に学習会を開催。学生ボランティアの力を借りながら、繰り返し課題に挑戦し、基礎・基本の力をつけていく。

保幼小中連携

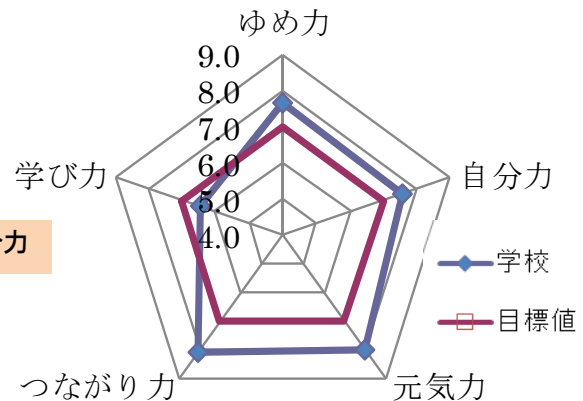
- (1) 小中授業実践項目
中学校入学後の子どもの不適應予防、学力向上のため、小中で授業の基本的な流れを統一。
- (2) 保幼小中連携カリキュラム
校区全体として、「目標に向かって最後まで努力できる子どもを育てる」を目標に、6つの力の向上に取り組む。今年度は「つながり力」。
- (3) 保幼小中合同研修、保幼小中合同授業研修
校区全体で統一されたテーマを各校園所で研究し、合同研修にて交流、進行状況の確認、修正を行う。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



分析

- ゆめ力・・・「物事を最後までやりとげてうれしかったことがある」、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」、「将来の夢や目標を持っている」の項目どれもが全国平均を超えた。特に、「将来の・・・」は大きな改善が見られる。
- 自分力・・・「自分には、よいところがあると思う」の項目に大きな課題が見られる。例年、この項目の課題は大きく、原因の追究と改善が急務となっている。同様に、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目も課題が大きい。一方、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の項目は例年同様、全国平均値の基準を維持した。
- 元気力・・・「毎日朝食を食べる」「同じ時刻に就寝」「同じ時刻に起床」すべて、全国平均を下回っている。ゲームやスマートフォン使用の時間が長く、生活習慣に影響が出ている。
- つながり力・・・「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」の項目に課題がある。「人が困っているときは、進んで助ける」の項目は全国平均を超えている。
- 学び力・・・「学校で、好きな授業がある」の項目は例年と比較して大きな課題があり、平均正答率との相関も考えられる。原因と改善策を模索し、今後の指導に活かしていく。

取組み

- ゆめ力・・・キャリア教育や進路教育を中学3年間で計画的に進めている。キャンペーン集会での生徒会活動や道徳の授業・学校通信・学年通信・進路通信・学級通信を通して、子どもたちの意識向上につとめている。
- 自分力・・・学校生活のほとんどは授業で過ごすため、授業の中でスモールステップを乗り越えながらしっかり力をつけ、少しずつ自信をつけていく。いじめについては、日々の学活・道徳や生活の中で指導し、キャンペーン集会でもいじめ撲滅をめざして、子どもたちの心に迫る取組みをしている。
- 元気力・・・各種調査結果から、スマートフォンの使用時間と生活習慣の乱れ、学力との相関関係について学活等で示し、生活習慣の改善に努め、家庭学習の向上へとつなげていく。
- つながり力・・・ペアや班活動など、周りに関わる活動に重きを置いて授業を実施し、学力の向上を図るとともに子ども同士で対話をする機会を多く持っている。また、班長会議や合同班長会議など班を中心に一人一人のつながりを持たせている。さらに、生徒会の委員会活動を定期的に全学年同時に行い、リーダー層の育成と学年を超えたつながりを持たせている。
- 学び力・・・学ぶ意欲を持たせるために、ぷらすノートを活用し毎日の学習や課題等の整理を図る。授業では生徒が受け身にならず、周りに対話しながら思考を深められる、全員の学びが保証された授業を目指している。また、授業での小中共通実践項目の実施や学びに集中できる学習環境を整えている。

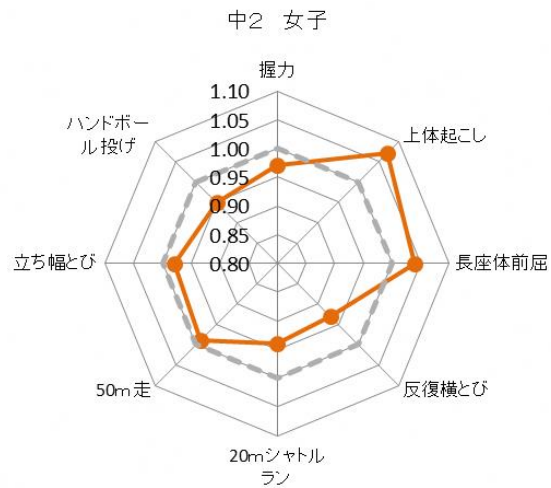
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

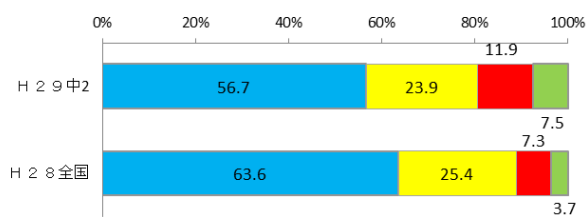
男子（中2）



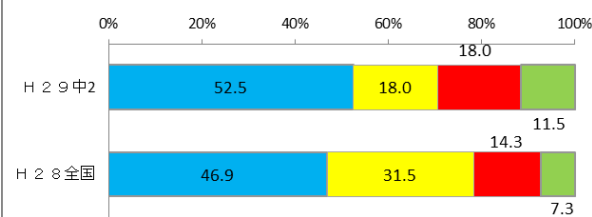
女子（中2）



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- ① 中2、中3で男女とも昨年度よりも記録が伸びているものの、20mシャトルランでの持久力、反復横跳びでの筋持久力・敏捷性が全国平均を大きく下回っている。
特に男子の20mシャトルランの数値の低さが目立つ。自分の限界まで走るのではなく、自分で決めた回数まで走ることを目標としている生徒が多く感じる。友達と記録を競ったり、自分の限界まで走るという意識を生徒が持つことで記録の向上を見ることができると考えられる。

- ② ハンドボール投げの巧緻性が男女とも弱い。ボール遊びのできる公園などの場所の減少などで、日頃からボールに触る機会が減ってきていることも要因かと考える。

今後の授業のなかで、男女とも課題であるハンドボール投げの向上のため、投動作を行う球技に取り組み、改善させていきたい。

取組み

- ① 全身持久力・・・インターバルやペースランニングを取り入れる。学年が進むにつれて強度をあげていき、持久力の向上を図る。さらに生徒が自分の限界まで何事にも取り組めるよう、普段の生活から意識する。
- ② 敏捷性・・・前後や左右に方向を変えながら素早く動く動作を授業の中で取り入れていく。
- ③ 巧緻性・・・パワーだけでなく、上半身と下半身の連動を意識した動きを習得したい。そのために、授業の中で全生徒が基本的な投動作を身につけられる授業を展開していき、来年度以降の記録の向上を図る。